

第 45 回 カンボジア訪問記

2017 年 2 月 9 日(木)～2 月 15 日(水)

今回のカンボジア訪問は、奨学生に奨学金授与を伴わない非公式訪問です。

訪問のきっかけはピーセットの手紙でした、家の厳しい状況が綴られ最後に中学 3 年の姉が病気で薬が買えず、「中村様 どうか、私達を助けて下さい」と、結んでありました。この深刻な手紙を読み、私の心は揺れ動き悩みました。その他の奨学生の手紙にも、心痛む出来事が書かれていて辛くなります。出来るなら訪問せずに訪問費用を送金したいと思いますが、そのシステムはありません。何も個々の苦しみに対し、「一奨学金支援者が対応する必要は無い」と言う考えもあります。自分自身の生活もあり、ごもつともな御意見だと思えます。しかし私は、自分に出来る範囲の心を届ける為、訪問を決めました。一個人の資金には限りがあり全ての苦境を救う事など出来ません。日本では 1 月から 3 月にインフルエンザが流行ります。もしインフルエンザをトローバイク小学校に持ち込んだ事を考えると恐ろしくなります。以前、訪問時にインフルエンザが村に流行していました。各家庭を訪れると藁で作った人形を家先に置き、魔除けにしていました。村民にとって病気は悲劇の始まりです。インフルエンザに罹れば必ず治療と治療費が掛かります。韓国の支援で立派に建て替えられた保健センターは医師が不在で、看護師が薬を処方して治療します。ここで治療が出来ない場合、州の病院か、プノンペン病院に搬送されます。しかし何れも医療水準は高くはありません。この様な理由からインフルエンザは絶対に持ち込まない様に、心がけました。1 月から訪問日までの間は外出を控えた為に、ストレスが溜まりました。出来れば 1 月から 2 月の訪問は、この様な理由で避けたいのが本音です。

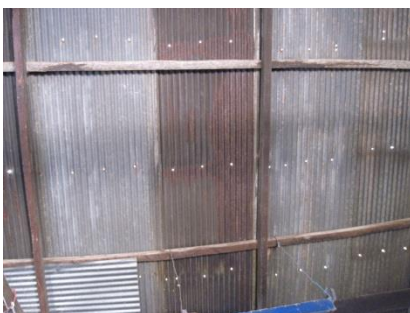
特別援助金

私以外の支援者が奨学金以外に特別援助金を贈る為依頼されて届けています。私は支援する奨学生が多く抱えている為、特別援助金は贈っていませんが貧困度合によって、奨学金自体を増額したり病気や個々の案件に対応して支援してきました。今回の訪問では一度ぐらい私も激励の意味で、他の方々と同様に特別援助金を贈ろうと考え実地しました。ただ現実には自分が支援する子供以外にも手を差し伸べる事態に遭遇し、贈る子供の人数は増えました。脱穀機に挟まれ小指を失った母親、薪を割る際、鉈が手に当たり大怪我をした父親の患部の縫合した糸の見える患部、悲劇は次々に起こっていました。その度に借金は増え続け、幸せは遠のきます。私は、トローバイクの子供達と出会い、自分の人生において大きな喜びを戴き幸せを感じています。この活動をしていなかったら仕事を離れた自分に、「現在の喜びや生きがい」を持たず疑問です。しかし助ける為にはそれ相当の資金も必要で、3,000 \$ 用意しました。財力も無い一市民の私がどんなに頑張っても、全ての苦境を助ける事は出来ません。出来る範囲で出会いの会った人々と寄り添い、少しでも力になりたいのが私の本音です。そして、その事が「私に喜びと生きがいを贈ってくれた彼らへの恩返しだ」と、考えているからです。どれだけの事が出来るかわかりませんが、少しでも一時の喜びを届ける理由で、急遽訪問せざるを得なくなり実地されました。

雨漏りは想像以上の地獄でした

11 月訪問時の奨学生の多くの手紙には「雨が降り続き就眠時、天井から雨漏りが酷く漏る」とありました。村の家を見ると瓦の家は恵まれた家です。多くはトタン板か、椰子の葉で多くの屋根は作られています。雨漏りは子供の頃、私も体験しました。天井から雨漏りする位置に洗面器などを置き、経験したものです。しかし今回、目にした実体は想像を超えていました。写真はドク・マネートの家の天井です。

使われているトタンは中古で、トタンの色も場所により違い、サビも見受けられます。トタンは以前に



使われた時の釘穴が多く見られ、当然この穴から雨漏りがするのです。屋内の天井は全てこの様な状況で、豪雨になれば、とても安眠できる事は出来ません。この酷い状況は私も経験が無く、想像を超えていました。恐らく室内どこにいてもびしょびしょになると思います。奨学生の大半がこの状況と言う事は、恐らく多くの村民が雨漏りで苦しんでいる可能性があります。屋根を直せば解決できる事ですが、現実には、まず毎日の食費に追われ、雨漏り対策は後回しになり簡単に直せないのです。

小学校教師への険しい道のり

従来、小学校の教師になるには、州の教員養成校の試験に合格しなくてはなりません。入学して2年間学び卒業すれば、市内の小学校へ赴任できます。今回の訪問時に耳にした情報では、近い将来、受験資格が高校卒業から、大学卒業へと変更されると、聞きました。教員レベルの向上を目指すカンボジアの教育・青少年・スポーツ省の願望が込められています。制度変更の実地は今年度からか、来年度からか、現在は不明ですが、将来はこの方向に向かうと考えられます。しかも、受験資格に年齢制限も加わります。この様に教師になる為に、かなりの狭き門を乗り越えなければならない現実には、教師を目指す子共には険しい道のりです。教師を目指すスレイトーンと、スレйтиムの姉妹は、受験資格変更を聞き衝撃を受け、涙を流しました。その大学卒業資格も、まず入学試験に合格し、4年間の学費と生活費の裏付けが必須です。家からの仕送りが無ければ大学で学ぶ事は出来ません。しかも卒業後は就職先を自分で探さなくてはならず、学生自身がコネクションを持たない場合は就職は簡単ではありません。その意味で100%就職が確定する教員養成校の入学願望は今後、ますます高まるであろうと感じ教師への道のりは一段と厳しさを増すであろうと感じました。

レクネナー



脳性マヒの弟を持つレクネナーは、コンポンチャム州教育局長の御配慮で、トローヤンポン小学校へ赴任が決まりました。とても嬉しい出来事で、喜びに包まれ、この結果に感謝を致しました。

しかし突然、悲劇が襲い、9月5日に暮らしを支えた祖母が亡くなり、11月1日には盲人の祖父まで相次いで亡くなりました。カンボジアの最も暑い季節には、気温が40度になります。9時から11時迄、13時から17時迄、授業を担当する教師のレクネナーは、体を全く動かさない脳性マヒの弟に水を飲ませる事が出来ません。熱中症になる危険があります。これは命に係わる問題です。この事について早急に対策を講じなければなりません。訪問に当たり、手を動かすことの出来ない弟の為に、水が飲める5種類の自助具を探し持参しました。しかし沢山持ち込んだ既成の自助具は全て役には立たず唯一、写真のステンレスコップ、コップを固定する四角い容器、こぼれないシリコン製の特殊蓋とストローの組み合わせで、見事 弟は水を飲む事が出来ました。いずれも偶然に見つけた普通の製品の組み合わせですが、弟にとっては世界中で一番素晴らしい自助具になりました。口の高さに合わせコップと箱を白い箱の上に

固定しました。前述した様に教師への道は厳しく狭き門となりつつあります。現在レクネナーはトローヤンポン小学校で1年と3年の授業を受け持っています。仕事を分け合っているトローバイク小学校の教師に比べ、2学年の授業を受け持つレクネナーは、給料面で非常に恵まれております。レクネナーの養成校入試は1度落ち浪人生活を経験しました。その期間も奨学金支援を続けた私は嬉しかったです。レクネナーから、憧れの教師に赴任し、子供達に教える喜びや教師としての苦労話が聞けると期待していました。しかしレクネナーからは、「土曜と日曜に州の大学で学び、中学校教師になりたい」と聞かされました。理由は「小学校教師は全教科を担当するが、中学校では専門教科のみ教えるから楽」と話しました。一面では向上心とも取れますが、「養成校受験に落ち涙を流した悔しさや悲しみ、入学できた感動、現在教師になれた喜びを決して忘れないで感謝する気持ちを持たなければいけない」と、思います。まずは、現在、教師として「子供達に教育を与える仕事に専念し人として守らなければいけないルールを教える仕事をしっかりして教師としての経験を沢山積んでもらいたいです。教師の仕事を始めたばかりで、「中学校教師への望みを語るの、早すぎるのではないかと、私は感じました。

私は前回11月にレクネナーに約束した事を尋ねましたが、本人は忘れて、答えが返って来ません。私はレクネナーに村で会う全ての村民に対して、チェムリアップ・スーオー(こんにちは)と声掛けをする様に話しました。笑顔で挨拶されて嫌悪感を持つ人はいません。この行動を通して村民の間で、レクネナーの評判や印象は良くなります。私はレクネナーに貧困で辛い環境下にいる生徒に対し、「子供に寄り添う優しい気持ちの教師で会ってほしい」と話しました。レクネナー自身、手紙に「お金が無く辛い生活」を書いていました。全ての点で、上から目線の教師には、なってもらいたくありません。

ポア・ロッター

ロッタは一家の生計を担う為、学校を辞めて現在、製靴工場で働いています。大分仕事に慣れたと見え11月よりは元気そうでした。ロッターは、支援者である篠原様と手紙の交流をして絆を深めています。



11月訪問時ロッターと握手した時、手が荒れているのに私は驚きました。この事を篠原さんに報告すると、ご自分が使っているハンドクリームを私に託し、ロッターに使わせる様に送付して下さいました。その上にロッターに手紙とお年玉も贈って下さいました。普段、働いた給料をカンボジアの子供達は一切手を付けず親に手渡します。この様な状況の中で「遠い日本から自分に励ましてくれる存在に大きな喜びを感じたかは想像できます。贈ってくれる篠原さんに深く感謝の念を持ち親密感が高まったと確信します。ロッターを優しく見守り厳しい生活の一助にと、温かい支援を続ける篠原様に、応援団も深い敬意を表し感謝申し上げます。ありがとうございます。



眼科でプーン・サビーが受診

土屋さんが以前支援したプーン・サビーは一家の生計を支える為に学校を辞め建築現場で働いていますが、スローンの手紙に寄れば、「目の病状が悪化している」との事で、眼科で診察を受けさせたく思い、サビーに連絡を取りました。13日の月曜日に眼科を尋ねる事にしました。この眼科はパニーの母親を涙嚢炎治療の為に訪れ、次いでトウイーン村長も同じく涙嚢炎の手術を行った病院です。病院長はカンボジア人で、ロシアに留学中、ロシア人の同級生との間にロマンスが生まれ現在は奥さんも眼科医師として活躍しています。村長の手術を執刀したのも奥さんでした。サビーは目の病状を、「白目の部位に白い物がる」と不安を口にしました。時々頭痛が襲い目の霞むや痛みを訴えました。診察は院長が行いました。診断結果は「重い眼病では無く、厳しい生活の中での疲れが目に見え、多少近視の傾向がみられる」と、話されました。飲み薬と目薬が処方されました。サビーは、バイクタクシーに乗り帰宅しました。サビーは帰宅後、私に連絡をくれて「薬と目薬で大分良くなりました。」と、感謝の言葉と伝えて来ました。3人の姉妹は、長女(プノンペンでお手伝い100\$仕送り)次女(縫製工場で160\$仕送り)そして三女のサビーは、建築現場で175\$を稼ぎ、自分の生活費として50\$を手元に、残金125\$を親元に仕送りする孝行娘です。サビーは医師に対し失礼の無い様に精一杯の装いで、病院に来ました。サビーの両親は娘達から毎月これだけの仕送りを受けながら、仕送りされたお金は元金返済では無く、利子の返済に充てられ、借金自体は少しも減りません。残金で両親と幼い兄弟の生活費に充て、少しも生活は楽にはなりません。あまりにも高いカンボジアの借金の高い利子は、全ての苦しみの基です。

新たな陳情

職員室での教師との懇談会で、先生方から応援団に陳情がありました。

雨期になると校門前の道が校庭より高い為、雨が降り続ければ校庭に水は溜まり、応援団が2000年に



建てた校舎と図書室に浸水し被害を受けます。浸水の実態は2013年9月訪問時に私自身体験してます。写真は教室内に浸水した2013年当時の状況です。ただ、それ以後は昨年3月訪問時の様に干ばつで、逆に地面は砂漠状態で、浸水はありませんでしたが、最近は学校前の池が常時満水状態で、子供達の手紙から雨が多く、雨漏りに悲鳴をあげている事からも以前の浸水の危機は迫ってきています。現実に訪問前に、校舎と図書室が浸水した事を告げられました。特に図書室は浸水時、担当のヴィ先生が駆けつけ、下段の本や支援物資を座卓の上

に避難させて大変でした。特に浸水校舎で授業を受け持つ先生方からは、強い要望が寄せられました。だから私自身、教師からの陳情の意義は理解できますが、この問題解決には資金が必要で簡単ではありません。話し合いの席上、私は1つの試案として、レンガを30センチ高く積み上げ水の浸入を防ぐ堤防の様な物を教室入口の前に凹に囲むアイデアを話しました。また教室入口内側に同様の30センチの防波

堤を作り、二重の守りで浸水を防ぐことを話しました。この企てが実現すると、子供達は教室に入るのに30センチの柵を2つ跨ぐことになりませんが、致し方ありません。跨ぐことが難しい場合は一度レンガの上に乗降りして教室に入る事になります。勿論、教室の扉を開閉可能のスペース確保は、必須です。私は新校舎を建てようとした時、建設会社の社長にこの問題解決の方法として、教室内に土を運び入れ、盛土する事を問いました。社長は校舎の壁面が膨張して危険であるから出来ないと答えました。確かに「紙の箱に砂を入れれば、箱は入れる前に比べて膨らむ」と、思います。それを防ぐには、教室の入り口がある壁面以外の3面は、盛土の土と壁を密着せず空間を確保するならばOKと考えますが、素人考えは危険で専門家である建築会社の社長や、建築大学を卒業して現在建築業を営む元奨学生のソキアンに相談しようと考えています。

第47回世界児童画展

トローバイク小学校には現在3人の教員養成校を卒業した教師が赴任していますが、ソピー先生が一番早く着任しました。トローバイク小学校の子供達が授業前に毎日唱えている6つの教育スローガンを、2012年3月訪問時に一早く暗誦させたのが、当時4年担任だったソピー先生でした。絵の指導法を先生方に話す時も意見や質問を発言し、積極的な教師と言う印象を持っていました。教育熱心な教師と、私も感じました。残念な事にカンボジアの学校は、美術、音楽、体育は正式授業科目ではありません。美術教育に関心を持ち熱心に指導できる教師がいても、現時点では勤務評定の対象にはなりません。とても残念です。しかしソピー先生の直向きな姿勢は、今回その成果は一挙に開花したのです。

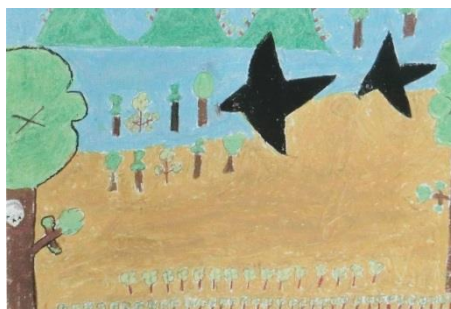
11月訪問時に子供達は描いた絵を世界児童画展に参加する為、応募しました。

1月31日に今年度の入賞したリストの発表がありました。今年度は特別金賞2名(1名)、金賞9名(6名)、銀賞13名(6名)、銅賞17名(12名)の合計人数41人です。(カッコ内)の25人(60%)がソピー先生が指導した2年生のクラスでした。今回は前回の入賞者23人から大幅に増えて、とても嬉しいです。

2年生のソピー先生がこの様に熱心に教えても、高学年になるにつれて的確な指導が成されなければ子供達の絵は向上しません。願わくば全ての教師が美術教育に深い関心を持ち指導される事を望みます。特に4年、5年、6年から素晴らしい作品が誕生する事を願っています。

今回の特別金賞2点です。

「家で待つお母さん」ヘー・チャンダー(6歳・男) 「ヒナに餌をあげる鳥夫婦」レン・ボーバー(10歳・女)



現在も幼稚園から6年生まで、トローバイク小学校全校生徒が6つの教育スローガンを授業前に唱えています。

低学年は意味より御経の様に、まず暗記して、高学年になるにつれて理解していきます。

- ① 私は正義を守ります
- ② 私は道徳を守ります
- ③ 私は清潔を守ります
- ④ 私は人に優しい心を持ちます
- ⑤ 私は自分に強い心を持ちます
- ⑥ 私は仏陀に素直な心を持ちます

6年間の在学中、知識ばかりでは無く人間として守らなくてはいけないルールを毎日唱える6つのスローガンで自然に身に付けられると確信しています。

トローバイク小学校はカンボジアで一番素晴らしい学校になる事を目指しています。

現在 応援団ではペンてるのパステルクレヨン16色1箱を生徒全員に、新学期である11月に贈ります。しかし1箱で1年間、絵を描き続ける事は、厳しいです。そこで教師との懇談会では、この問題について話し合いました。子供達にとっても、指導をする教師においても、絵の授業時間の間隔が空きすぎているのは良くない事です。日本の学校の様に週1回、美術の時間を持ち学ぶ事は出来ません。そこで、夏休みなど長期の空白期間を避け、しかも連続的に美術の授業が行える期間が選択されました。

3月、4月、5月、6月の4ヵ月間です。この期間は11月の新学期から中間で新学年にも慣れ、ちょうど落ち着いた時期でもあります。この様に決まりましたので、応援団は1年間に使う画用紙を購入しました。そして対応する準備を整えました。教師全員がソピー先生のように、意欲的になる事を願っています。

ソクーンの日本語

現在 韓国語の塾で学ぶ子供達があります。これは韓国に出稼ぎに行く際の採用試験に韓国語があり、その際に少しでも有利になるように将来への配慮だと推測します。現実に韓国から帰国後、新築の家が建ち出稼ぎの成果が村人に知れ渡ると、韓国への出稼ぎ熱は高まるばかりです。しかし韓国へ渡航する為、パスポート取得代や旅費を借金して工面し、過酷な労働の結果、代償を受け取る事は 簡単ではありません。他方、日本政府は現在単純労働者の入国は認めておらず、最近進出する日本企業の日本語はまだ人気がありません。ソクーンは、町に唯一ある日本語塾CBBで学び、現在CBBで生活し日本人教師と暮らしています。その為、会話は以前と比べ、最初の早口も大分改善され飛躍的に上達しています。訪問中、私は奨学生や村人との話し合いに、ソクーンを同席させ勉強になるので通訳を依頼しました。困った時は勿論、ヴッティさんに助けを求めました。ソクーンの感を含めて、少なくとも半分位は何とか通訳出来たと感じました。ソクーンが日々努力をして頑張っているのが解り、とても嬉しく感じました。



つくづく語学は学ぶ国の人とふれ合う事が一番有効だと痛感しました。ソクーンは奨学生の中で現在、最古参の高校3年生で今年卒業です。ソクーンの家状況は大変厳しく、現在の苦境から抜け出す為にも、日本語をマスターして人生の栄光へと、歩んでもらいたいです。夜、CBBへ向かう時、自転車で転んで頭を負傷しました。内出血よりは外傷の方がましですが、出血に驚き、CBBの先生に助けを求めて、治療を受けました。この事でソクーンと先生の絆は、深まりました。写真は私とモーイとの会話を通訳するソクーン(左側)です。

衝撃 小指の爪部分切断



今回一番衝撃を受けたのは、リ・ブントオーイの母親が農作業中に脱穀機に指を挟まれる事故に遭遇して、小指の爪部分を失った事です。この現場に息子のブントオーイも働いていましたが、息子の体を助けようとして自分の小指が巻き込まれて切断されました。出血がひどく、日本なら救急車で病院に駆け込みますが、悲しいかな、ここはカンボジア、村にいる看護師の緊急処置を受けました。毎日消毒に行き手当を受けているとのことですが、病院での治療を受けないで良いのか、心配になりました。治療代の一部に役立ててもらおうと、お見舞いを贈りました。ブントオーイは現在、母と2人暮らしですが、この事故で母親は働けず暮らしが心配です。

センタイ



昨年訪問時に体調が急変したセンタイと会いました。一見元気そうに見えますが、体調は今一つです。喉の腫瘍手術した病院に予約を取り診察に訪れると医師は蒸発！この様な事が3回ありました。明らかに患者であるセンタイを避けています。止もう得ず薬を購入して帰路に着きます。その後、病院に電話を掛けて医師を呼び出してもらい名前を名乗ると電話は切られる始末でお手上げです。頭痛や食後に水や唾液を飲み込んでも喉は痛いそうです。喉の手術時、大きな腫瘍が摘出されたのだから、体調が好転すると期待しました。鼻にも腫瘍があると言う事で時々息苦しくなります。センタイの体調は万全ではありません。センタイは叔母さんと同居していますが、家での生活を始めると精神的に苦しくなります。その為、お寺の住職から、お払いを受けています。意識を失い体を硬直した時に比べれば、一見元気そうですが現実には厳しいです。鼻の手術にしても前の病院での治療は望めません。センタイにとって心身共に健康になっての笑顔は、まだ先の様です。担任はセンタイが体調を崩し学校を休んだことに対して考慮は一切されず進級は、ギリギリです。教師はセンタイに書籍名を示して本を購入して読んでレポートを提出してクラスで発表する事を命じ、内容次第では進級時の試験成績に40点を加算して配慮する事を言い渡しました。逆に言えば進級は風前の灯です。パウの街にはきちんとした本屋などありません。

本を購入するにもお金が必要です。この事を聞いてプノンペンに帰りプノンペン有数の文具と書籍を扱うIBCに行き本を探し出して購入しました。センタイは本を入手する事は不可能とだけ思っていただけに大喜びしました。願わくば素晴らしい内容のレポートの発表を行い、無事に進級できることを願っています。

サロット来訪に驚きと喜び

図書室前で先生方、村人らと談笑していた時に、校庭に一台のオートバイが入って来ました。ヘルメットとサングラスの人を見て「最初、誰だか解りませんでした。」運転していた人は、ヘルメットを取りサングラスを外して、笑顔で私に合掌をしました。ヴッティさんが「サロットだ！」と、声を上げました。サロットには、昨年7月訪問時に会っていますが、今回は眼鏡を掛けて体型がふくよかになり、最初は解らなかつたです。挨拶を交わし、私はサロットに「なぜ応援団の訪問が解ったのですか」と尋ねました。サロットは「ヴッティさんのフェイスブックを見て、中村さんの訪問を知り駆けつけました」と、答えました。



カンボジアの経済財政省の試験は、難関中の難関ですが、サロットは挑戦して見事合格しました。コンポンチャム州の税務署に赴任して精勤を重ねて、現在トボンクム州税務署の副所長です。トボンクム州は2013年末にコンポンチャム州から分離、2014年成立された新しい州です。オートバイでトローバイク村迄5時間もかかるそうです。その遠い任地からわざわざ私に会いに来られた事に対し、とても嬉しく感動致しました。今後も仕事の責任は重くなると思いますが、大いに活躍される事を願っています。この場に支援者の山本様がおられたら、サロットも山本様も喜びは一層倍加したに違いないと強く感じました。

サロットは私に「山本様に手紙を書きたいが、紙はありますか」と尋ねました。

そして山本様に手紙を書きました。サロットは山本様から助言された人生の指針がどれだけ役立っているか話し感謝している事を述べました。サロットの月収は800\$だそうです。カンボジアの正月(4月)には、トヨタのプリウスを購入しようと考えている様です。現在の幸せを手に入れる為にどれほどの努力があったかは本人のみが知る所ですが、多くの子供達がサロットにならって幸せを手にしてもらう事を願い、喜びを子供達と分かち合いたいです。

母は子を想い、子は母を想い

冒頭に書いた様に今回の訪問はピーセツの手紙で決まりました。ピーセツは真面目で謙虚な性格です。私に直接、願い事は出来ない性格の彼が病気の姉の助けたい一心で、止むに已まれず書いた手紙は私の心を直撃しました。世の中、働けど働けど暮らしは楽にならない不運な人は実在します。父親は家族の為に頑張りますが、結果は全て裏目に出てしまい本当に気の毒です。すぐにカンボジアに行く事は出来ず、両親は恐らく治療の為に、借金をしたと推測しました。ピーセツの父親はチャンターさんです。私はチャンターさんの全ての苦しみを救う事など出来ませんが、少しでも苦しい状況を一瞬だけでも和らぐ位ならと考えていました。以前にも書きましたが、チャンターの母親はチャンターを育てる時、孤児の女児も我子同様に育て上げました。だからチャンターさんと孤児の娘は兄弟同然です。この孤児が以前、長谷川様が支援したサルーンの母親コン・キェムです。チャンターの母親は孤児の娘だけでは無く、孫にあたるキェムの息子サルーンも育て上げました。現在母親は、150キロ以上も離れたプレアヴィヒャ州で他の息子と一緒に暮らしています。(写真は昨年キェムの手術立会時に来訪して、再開した母親)昨年、キェムが子宮筋腫の手術の際は立ち会う為、わざわざプレアヴィヒャ州から出かけてきたのを見てもキェムに対する愛情の深さを感じました。私は母親の素晴らしき人柄にひかれ、以前から自分なりに表彰したいと考えていました。しかし母親はトローバイク村には不在で、遥か150キロ先に住み、イモ類の栽培で生計を立てています。暮らしはかなり苦しいと聞かされました。そこでチャンターさんの家を訪問し母親の近況を尋ね、母親の素晴らしき行為に対して1,000\$を進呈したいと申し出ました。この申し出に感動したチャンターさんの目に涙が溢れました。通訳のヴッティさんもこの金額には驚き、思わず「そんなに」と、言葉を発しました。私自身は母親の素晴らしき子育ては1,000\$では足りず、1,000,000\$以上の行いと考えますが、いかんせん今回の贈り物総予算が3,000\$では致し方ありません。私はチャンターさんに「母親と電話連絡が出来ますか」と、尋ねました。彼はすぐに母親に電話をして事情を説明いたしました。そして私も電話口に出て「こんにちは。お元気ですか。私は中村利夫です。」と話した後に私の日本語を



ヴェティさんが母親に伝えます。この突然の贈り物の申し出に母親は深い感謝をして息子の借金で苦しむ生活を少しでも解消してあげたい9との親心で、「私は半分頂き、残りの半分は息子に贈りたいと思いますが、お許し頂けるでしょうか」と、私に尋ねました。私は勿論この願いを了承しました。母親は「すぐにでも直接中村さんにお会いしてお礼を言いたいです。しかし遠くで会う事が出来ません。申し訳ありません。本当にありがとうございます。何時までもお元気で

お体に気を付けて下さい」と深く礼を言いました。互いに健康に注意して長生き出来る様に、そして幸せな生活を送れるように、エールの交換をしました。電話が終わった後、チャンターさんからも、感謝の言葉が述べられました。チャンターさんは母親の苦しい生活状況を知っているので、「母親が半分づつと話しましたが、私は母親に700\$を送ります。私は300\$を頂かさせていただきます。本当にありがとうございます。」と告げました。母親子を想い、子は母を想いです。この様子を高床式の家の下で聞いていたキムは、話が終わり階段を下りた私に駆け寄り、合掌して「母親と兄を助けて頂き、ありがとうございます。」と感謝の言葉を述べました。金額こそ少なく申し訳ない気持ですが、長年の思いが達せられこの場にいた全員が至福感を味わいました。

図書委員の家を訪問

何時も図書室管理を担う図書委員に感謝をしています。奨学生以外の家を訪問する事は滅多になく、私は図書委員の家を訪問したいと「家を訪問したいが、宜しいですか」と尋ねました。図書委員は心地よく承諾してくれました。多くの家を目にする事で村の実体を知る事が出来ると考えたからです。訪問先で深刻な事態に出会った場合の対応は、覚悟しました。16名の図書委員の家を訪れ、家族構成職業や月収、借金、農地、電気、トイレ、TVの有無、塾で学んでいるか、成績などを尋ねました。実際に家を訪問して印象はまちまちで、貧富の格差はトローバイク村でも感じました。中でも家族6人で月収が極端に少なく極貧の家庭も見られ、衝撃を受け対応したいと痛感しましたが簡単ではありません。

届け物



キムランに支援者から沢山の贈り物が届けられました。

特別援助金や栄養剤、文具、沢山の御菓子です。これらの日本からの温かい贈り物はカンボジアの子供にとって大きな喜びを与え支援者の為にも「自分は頑張らなくてはいけない」と、自覚を持つと思います。普段ケーキ類を食べる機会の無い生活で、ロッテのカスタードケーキは好評でした。ラクサーにも支援者から特別援助金が届けられました。

訪問のお誘い

応援団は多くの方々にカンボジアの子供達と出会い絆を深めて頂こうと訪問参加者を呼び掛けています。**2017年度は(現地の要請で3月が変更されました。)**3月(4月21日～27日)に、訪問致します。7月(6月30日～7月7日)に、訪問致します。11月(11月23日～11月30日)に、訪問致します。お得な航空券確保の為、早めのお申し出をお待ち致します。カンボジアへは**念願の直行便**が、全日空が就航し訪問が大変楽になりました。



トローバイク小学校応援団

〒358-0053埼玉県入間市仏子1332-2 TEL 04-2932-0750

メールでの問い合わせは、E-mail trobekelementaryschool@ybb.ne.jp

ホームページは、URL: <http://www.trobek.org/>

御支援は、銀行お振り込み、ゆうちょ銀行、店番号(019店・ゼロイチキュウ店)、預金種目(当座)、口座番号(0258991)、受取人(トローバイクショウガッコウオウエンダン)

郵便局お振込、郵便振替口座番号(00140-9-258991)、受取人(トローバイク小学校応援団)